

早稲田大学教育・総合科学学術院

オンライン授業の 現在地

2022.
12.17.

学生による自由記述の分析から

開催要項

日程: 2022年12月17日(土)14:30-17:30

場所: 早稲田大学 早稲田キャンパス 3号館 405号室

開催方法: ハイフレックス(対面・Zoomウェビナー併用)

対面参加: 会場に直接おこしてください(事前登録不要)。

オンライン参加: 右のコードからフォームを開き参加登録を行ってください。

研究所HP(<https://www.waseda.jp/fedu/iase/>)からもアクセス可能です。

※オンライン参加登録は11/17以降可能となります。

オンライン参加
登録フォーム

プログラム・登壇者

講演1 オンライン教育を問いなおす—プロジェクトの概要

早稲田大学教育・総合科学学術院

教授 濱中 淳子

(早稲田大学大学総合研究センター副所長)

講演2 いまの学生たちはオンライン授業にどう向き合っているのか

—キーワードにみる特徴

早稲田大学大学院教育学研究科 (学校教育専攻)

修士課程 木元 千尋

講演3 何が学生たちのオンデマンド授業の評価を左右しているのか

早稲田大学大学院教育学研究科 (教育基礎学専攻)

博士課程 劉 琦

早稲田大学大学院教育学研究科 (社会科教育専攻)

修士課程 渡邊 泰斗

早稲田大学大学院教育学研究科 (学校教育専攻)

修士課程 神内真利恵

早稲田大学大学院教育学研究科 (学校教育専攻)

修士課程 劉 陽

講演4 進むのか? 戻るのか? —行き詰る大学授業形態

早稲田大学大学院教育学研究科 (国語教育専攻)

修士課程 小出 素

講演5 変わる大学・変わらない大学

早稲田大学大学院教育学研究科 (学校教育専攻)

修士課程 八木 悠太

コメント

早稲田大学人間科学学術院

教授 森田 裕介

(早稲田大学大学総合研究センター副所長)

フリーディスカッション

早稲田大学教育・総合科学学術院

教授 濱中 淳子

早稲田大学人間科学学術院

教授 森田 裕介

早稲田大学大学院教育学研究科 (学校教育専攻)

修士課程 八木 悠太

早稲田大学教育学部 (教育学科生涯教育学専修)

3年 林 佳輝

早稲田大学教育学部 (社会科公共市民学専修)

2年 金子 綾香

オンライン授業の現在地

—学生による自由記述の分析から

講演概要

本講演会は、早稲田大学教育・総合科学学術院の学生に実施した自由記述形式のアンケート調査の分析から、オンライン教育の現状と課題をあぶり出すことを目的とする。

2020年春、新型コロナウイルス感染拡大の影響によって、それまでなかなか普及しなかったオンライン教育が全国の大学で一気に活用されるようになった。早稲田大学も例外ではなく、課題提示型授業、オンデマンド授業、リアルタイム配信授業など、さまざまな方法によるオンライン授業が展開した。

それから2年がたち、状況にも変化が生じている。対面授業が復活し、オンライン授業は「強いられるもの」から「選ばれるもの」になった。教員や学生たちもオンライン授業に慣れ、「学びを止めるな」という掛け声のもとで必死になって取り組むものではなくなっている。

では、いま現在のオンライン授業の状況は、どのように理解されるべきだろうか。とりわけ教育を受ける立場の学生は、オンライン教育にどのように臨み、何を感じ、どのようなあり方を望ましいと考えるようになっているのだろうか。教育・総合科学学術院では、今夏、学部生・大学院生に自由記述形式のアンケート調査を行った。この学生調査データを、学生自らが学生ならではの視点で分析した知見を共有することで、オンライン教育の今後を考えるための土台を構築することにしたい。

《プログラム》

日時：2022年12月17日（土）14：30～17：30（予定）

開催方法：ハイフレックス(対面・Zoomウェビナー併用)

講演：

1. 濱中 淳子 氏 早稲田大学教育・総合科学学術院 教授
2. 木元 千尋 氏 早稲田大学大学院教育学研究科（学校教育専攻） 修士課程
3. 劉 琦 氏 早稲田大学大学院教育学研究科（教育基礎学専攻） 博士課程
- 渡邊 泰斗 氏 早稲田大学大学院教育学研究科（社会科教育専攻） 修士課程
- 神内 真利恵 氏 早稲田大学大学院教育学研究科（学校教育専攻） 修士課程
- 劉 阳 氏 早稲田大学大学院教育学研究科（学校教育専攻） 修士課程
4. 小出 素 氏 早稲田大学大学院教育学研究科（国語教育専攻） 修士課程
5. 八木 悠太 氏 早稲田大学大学院教育学研究科（学校教育専攻） 修士課程

—休憩—

コメント、森田 裕介氏 早稲田大学人間科学学術院 教授

フリーディスカッション、濱中 淳子氏(早稲田大学教育・総合科学学術院教授)、森田 裕介氏(早稲田大学人間科学学術院教授)、八木 悠太氏(早稲田大学大学院教育学研究科(学校教育専攻)修士課程)、林 佳輝氏(早稲田大学教育学部(教育学科生涯教育学専修)3年)、金子 綾香氏(早稲田大学教育学部(社会科公共市民学専修)2年)

開会挨拶 近藤 孝弘氏（早稲田大学教育総合研究所 所長/教育・総合科学学術院 教授）

司会 野口 穂高氏（早稲田大学教育総合研究所 副所長/教育・総合科学学術院 教授）

1.オンライン教育を問いなおす—プロジェクトの概要

濱中 淳子氏 早稲田大学教育・総合科学学術院 教授

早稲田大学教育・総合科学学術院の一部教員から構成されるオンライン教育調査研究グループは、2021年度より、本学術院でのオンライン教育実践の検証と記録、可能性の分析ならびに成果の発信を試みている。2021年度は授業評価や接続ログの分析を行ったが、2022年度は学生の視点からみたときのオンライン教育の現状と課題を抽出することに注力した。本講演会はその成果報告会であり、ここでは導入としてプロジェクトの概要を説明する。

2.いまの学生たちはオンライン授業にどう向き合っているのか

—キーワードにみる特徴

木元 千尋氏 早稲田大学大学院教育学研究科（学校教育専攻） 修士課程

学生が自らのオンライン授業に対する態度を表すものとして挙げたキーワードと、その選定理由を分析した。多様なキーワードを足がかりに分析を進めていくと、学生たちの特徴的な取り組み方を示す複数のタイプが現れた。一方で、一見対極的な取り組み方をしているように見える学生たちの様相からは、ある共通点が浮かび上がってきた。相違点と共通点に着目しながら、オンライン授業に向き合う学生たちの実態を明らかにする。

3.何が学生たちのオンデマンド授業の評価を左右しているのか

劉 琦氏 早稲田大学大学院教育学研究科（教育基礎学専攻） 博士課程

渡邊 泰斗氏 早稲田大学大学院教育学研究科（社会科教育専攻） 修士課程

神内真利恵氏 早稲田大学大学院教育学研究科（学校教育専攻） 修士課程

劉 陽氏 早稲田大学大学院教育学研究科（学校教育専攻） 修士課程

コロナ禍を機に本格的に導入されたオンライン授業を、学生たちはいま、どのように受け止めているのでしょうか。どのような授業を良かったと捉え、そして不満を抱いているのでしょうか。以上の観点に関する自由記述回答を取り上げ、KH Coderを用いた計量テキスト分析によって、何が学生たちの授業評価を左右しているのかを検討しました。本報告では、そのなかで見えてきた「複雑化しているオンライン授業観」の姿を紹介します。

4.進むのか？戻るのか？—行き詰る大学授業形態

小出 素氏 早稲田大学大学院教育学研究科（国語教育専攻） 修士課程

2年以上にわたるコロナ禍を経た学生たちは大学教育やその中のオンライン教育について何を考えるようになってきているか。KJ法でアンケートの自由記述を分析し、そこからみえた現状を提示する。学生たちの意見は、オンライン教育肯定派と反対派、またその間に横たわる諸々の中間的な意見へと整理される。そしてこの中間的な意見にこそ学生たちの要望が集約されている。当日はその要望に加え、分析全体から導かれる課題にも言及したい。

5.変わる大学・変わらない大学

八木 悠太氏 早稲田大学大学院教育学研究科（学校教育専攻） 修士課程

コロナ禍の大学教育3年目を迎えようとしています。当初はオンライン授業のみでしたが今年からは対面授業も再開され、両者を組み合わせた授業となっています。では、対面・オンライン授業の違いとは何なのでしょう。授業形態以外の違いはないのでしょうか。まだ検証が十分行われていないこの問いについて分析することを通して、「教育」「大学」について考えていければと思います。